

ガラスびんに関する自主行動計画の2013年度フォローアップ結果

ガラスびん3R促進協議会

【リデュース】

2015年度目標	2013年度取り組み実績
1 本当たりの平均重量を基準年(2004年)対比で2.8%の軽量化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年実績として、基準年(2004年)対比で1本当たり1.7%の軽量化がはかられた。 1本当たりの単純平均重量は基準年(2004年)の192.3gに対し、180.5gで6.1%(11.8g/本)の軽量化がはかられたが、これには容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.7%(3.3g/本の軽量化)となった。 ・なお、2013年の単年度で新たに軽量化された商品は、8品種18品目であり、軽量化重量は721トンであった。

【リユース】

2015年度目標	2013年度取り組み実績
市場別に課題を明確化し、関係主体の協力のもと、リユース(リターナブル)商品のPRや実証事業の実施に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」に参画するとともに、地域型びんリユースシステム構築に向けた実証事業として四つの実証事業と連携し取組を推進した。 ・2011年9月に立ち上げた「びんリユース推進全国協議会」と連携をはかり、地域型びんリユースシステム再構築に向け、東北をはじめとした全国8か所での地域推進体制の整備をおこなった。 ・関係他団体(日本酒造組合中央会、1.8L壺再利用事業者協議会)と連携したびんのリユース推進事業の取組みをおこなった。

【リサイクル】

2015年度目標	2013年度取り組み実績
<p>[リサイクル率] リサイクル率70%以上を目指す。</p> <p>[カレット利用率] カレット利用率97%を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「リサイクル率」の2013年実績は67.3%となった。基準年(2004年)対比では+8.0%と向上した。 ・「化粧品びん」の分別収集促進については、日本容器包装リサイクル協会と連携の上、未分別収集自治体への個別アプローチをおこない、2014年3月現在48.8%の自治体(人口比)が分別収集を実施・計画中となった。 ・目標として設定した「カレット利用率」の2013年実績は99.0%となった。 ・再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努め、2013年出荷量は96百万本と基準年(2004年)対比99.8%となった。

【広報・啓発活動】

2015年度目標	2013年度取り組み実績
ガラスびんの「3R」の取り組みや「びん to びん」リサイクルの有効性について、消費者への積極的な広報活動をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラスびん3R推進事例として、ガラスびん軽量化商品をWEBサイトに掲載し情報発信をおこなった。 ・ウェブサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、びんリユースに関する各地域での取り組みを紹介するとともに情報発信をおこなった。 ・小中学生を対象とした「ガラスびん絵画・ポスターコンクール」を継続実施するとともに、小中学校教師との座談会を実施し、次世代に対する環境教育の観点から取組みの強化をはかった。 ・新たに「ガラスびんのリユース」を紹介するムービーを制作し、ウェブサイト並びにYouTubeで公開し、情報発信に努めた。

【リデュース】（軽量化・薄肉化）

①一本当たりの重量変化

2013年実績として、基準年（2004年）対比で1本当たり1.7%の軽量化がはかられた。

1本当たりの単純平均重量は基準年（2004年）の192.3gに対し、2013年実績は180.5gと6.1%（11.8g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.7%（3.3g/本の軽量化）となった。【表1】

残りの4.4%（8.5g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004年）対比での軽量化による資源節約量は、2008年～2013年（6年間）で、132,248トン（100mlドリンク剤びん換算 12億8525万本）となった。

【表1】1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
生産本数(千本)	7,262,950	6,846,912	6,653,700	6,771,964	6,875,461	6,610,045	6,839,754
生産重量(トン)	1,396,582	1,266,242	1,213,075	1,222,525	1,230,174	1,182,952	1,180,180
単純平均重量 (g/本)	192.3	184.9	182.3	180.5	178.9	179.0	180.5
ネット軽量化率指標 (加重平均)	100.0	98.6	98.2	98.3	98.0	97.9	98.3
軽量化による 資源節約量(トン)	—	17,979	22,236	21,142	25,106	25,375	20,410

②軽量化実績

2013年に新たに軽量化された商品は、8品種18品目であり、軽量化重量は721トンであった。

2006年から2013年までに軽量化された商品は、11品種163品目となった。【表2】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】2006年から2013年までに軽量化された品目

品 種	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク（6品目）
薬びん	細口びん（1品目）、広口びん（1品目）
食料品びん	コーヒー（15品目）、ジャム（7品目）、粉末クリーム（2品目）、蜂蜜（1品目）、食用油（1品目）、食品（5品目）
調味料びん	たれ（7品目）、酢（13品目）、ソース（1品目）、新みりん（1品目）、醤油（2品目）、つゆ（2品目） 調味料（10品目）、ドレッシング（7品目）
牛乳びん	牛乳（5品目）
清酒びん	清酒中小びん（25品目）
ビールびん	ビール（3品目）
ウイスキーびん	ウイスキー（5品目）
焼酎びん	焼酎（10品目）
その他洋雑酒びん	ワイン（15品目）、その他（2品目）
飲料びん	飲料ドリンク（4品目）、飲料水（1品目）、炭酸（3品目） ジュース（6品目）、ラムネ（1品目）、シロップ（1品目）

【リユース】（リターナブルびんの普及）

① リターナブルびんのPRやモデル事業の実施

・2013年度は環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」に参画するとともに、自治体や事業者等の多様な関係者が連携し、地域型びんリユースシステム構築に向けた実証事業に取り組んだ。

＜2013年度のびんリユース実証事業＞

・（1）関東甲信越におけるびんリユースシステム構築事業（2）大阪リユースびんの開発・販売回収・普及事業（3）奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料普促進事業（4）岡山県産茶葉を用いたリユースびん入り飲料の開発事業の4つの実証モデル事業と連携し、取組を推進した。

② リターナブルびんの使用量実績

・リターナブルびんの使用量については、経年的な減少傾向に歯止めがかからず、業務用と家庭用宅配というクローズド市場を中心に存続といった状態であり、2013年使用量実績は101万トン（基準年比55.2%）となった。【表3】

・びんのリターナブル比率（リターナブルびん使用量÷（国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量））は2009年から50.0%を割る結果となった。

【表3】リターナブルびんの使用量実績（単位：万トン）

	2004年 基準年	2008 年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2013年実績 基準年比
リターナブルびん使用量	183	144	133	125	112	106	101	55.2%
国内ワンウェイびん量 （輸出入調整後）	158	139	140	143	140	138	136	86.1%
リターナブル比率～%	53.7	50.9	48.7	46.6	44.4	43.4	42.6	—

③ リターナブルびん拡大に向けた取組み

・地域や市場特性に合わせた取組みを強化すべく、消費者・自治体・流通/販売事業者やびん商等関係主体の一層の連携を深め、地域型びんリユースシステム再構築に向けた取組みをおこなった。新たな推進体制として2011年9月に立上げた「びんリユース推進全国協議会」と連携し、東北地域、関東・甲信越地域、中部地域、近畿地域、中四国地域、九州地域それぞれ地域ごとにびんリユース推進体制の整備をはかった。

・関係他団体（日本酒造組合中央会、1.8L壺再利用事業者協議会）とも連携したびんのリユース推進事業の取組みを強化した。

・また、2009年2月に立上げたウェブサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、リターナブルびんの最新情報や全国各地展開されるびんリユースの取組みの紹介をおこない、リユース推進活動の「見える化」と情報発信に努めた。

【リサイクル】（リサイクル率の向上）

① リサイクル率の推移

・「リサイクル率」は毎年向上し、2013年では67.3%となり、基準年（2004年）対比では、+8.0%となった。【表4】 これは、ガラスびん分別収集の推進による成果であるが、あきびん収集段階で細かく割れたガラスびん残渣の資源化が課題となっている。

【表4】 リサイクル率の推移

	2004年 基準年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
リサイクル率(回収・再資源化率)	59.3%	65.0%	68.0%	67.1%	69.6%	68.1%	67.3%

・自治体によるガラスびんの人口一人あたり再商品化量（H23年度）を集計し、7月24日記者説明会で公表し、当協議会のウェブサイトに掲載した。

・「化粧品びん」の分別収集促進活動については、日本容器包装リサイクル協会と連携し全国の自治体に行い、2014年3月現在48.8%の自治体（人口比）が化粧品びん分別収集を実施・計画中となった。

② カレット利用率の推移

・「カレット利用率」については、2013年実績では99.0%となり、基準年（2004年）対比では、+8.3%となった。【表5】

【表5】 カレット利用率の推移

	2004年 基準年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
原材料総投入量（千トン）		1,812	1,747	1,763	1,751	1,693	1,702
ガラスびん生産量（千トン）①	1,554	1,387	1,330	1,337	1,342	1,281	1,287
カレット使用量（千トン）②	1,409	1,343	1,297	1,295	1,284	1,285	1,274
カレット利用率（%）②÷①	90.7	96.8	97.5	96.9	95.7	100.3	99.0

「ガラスびん生産量」：経済産業省「窯業・建材統計」

「カレット使用量」：日本ガラスびん協会資料及びガラスびんフォーラム資料

・参考ながら、2013年のガラスびん原材料総投入量（カレット利用量＋バージン資源量）は、1,702（千トン）であり、原材料総投入量に占めるカレット（再生材）の使用比率は、74.8%であった。

・再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努めたが、2013年出荷量は96百万本と基準年（2004年）対比99.8%となった。

【広報活動】

- ・広報誌「びんの3R通信」にて、「学校牛乳に牛乳びんを」「未来に伝えたいびんの魅力と3R」「地域に生きるびんリユース」を特集し、情報発信をおこなった。
- ・ガラスびんの3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を配布し、容器排出方法については「ガラスびんの流れ（リユースとリサイクル）」ポスターと「あきびん以外のものを混ぜない!」リーフレットを配布し、広報に努めた。
- ・ウェブサイトでのガラスびん3R推進事例「軽量化したガラスびん入り商品」および自治体関係コーナーでの「自治体ガラスびん分別収集好事例」を追加掲載し、情報発信力強化をはかった。
- ・小中学生を対象とした「ガラスびん絵画・ポスターコンクール」を継続実施するとともに、小中学校教師との座談会を実施し、次世代に対する環境教育の観点から取組みの強化をはかった。
- ・「エコプロダクツ」への出展に加え、東京パック、新宿区3Rイベントほかに参加し、ガラスびんの3Rについての直接広報活動を実施した。
- ・新たに「ガラスびんのリユース」を紹介するムービーをリターナブルびんコーラス隊仕立てのシナリオで制作し、ウェブサイト並びにYouTubeで公開し、情報発信に努めた。

ガラスびん 3 R 促進協議会の概要

■ 設立年月日

平成 8 年 1 月 1 日 設立

平成 26 年 1 月 1 日 より組織名称を「ガラスびんリサイクル促進協議会」から「ガラスびん 3 R 促進協議会」に改定

(前身のガラスびんリサイクリング推進連合は昭和 59 年 1 月 設立)

■ 設立の目的

本会は、ガラスびんの 3 R (リデュース、リユース、リサイクル) を一層効率的に推進するために必要な事業を広範に行うことにより、資源循環型社会の構築に寄与することを目的とする。併せて、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会と連携して効果的な事業を行う。

■ 名 称

ガラスびん 3 R 促進協議会

Glass Bottle 3R Promotion Association

■ 事務所

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-21-16 日本ガラス工業センター 1 階

TEL : 03-6279-2577 FAX : 03-3360-0377

Home Page : <http://www.glass-3r.jp>

■ 事業内容

- (1) ガラスびんの 3 R (リデュース、リユース、リサイクル) についての普及・啓発
- (2) ガラスびんの軽量化に関する調査・研究
- (3) リターナブルびんの普及拡大のための調査・研究
- (4) カレット利用率の向上及びカレットの品質向上のための調査・研究
- (5) カレットの他用途利用に関する調査・研究
- (6) 行政機関・関連業界等へのガラスびんリサイクル促進のための要請及び建議
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

■ 会 員

[正 会 員]

- (1) ガラスびんの製造事業を行う者もしくはそれらの団体
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の製造又は販売事業を行う者もしくはそれらの団体
- (3) カレット又はガラスびんの回収、処理事業を行う者もしくはそれらの団体
- (4) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者もしくはそれらの団体

[賛 助 会 員]

- (1) ガラスびんに関連する事業を行う者
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の輸入、販売を行う者
- (3) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者
- (4) 本会の目的に賛同する法人もしくは団体

■ 会 員 数

平成 26 年 11 月 現在

会 員 構 成	会 員 数
正 会 員	
ガラスびんメーカー	13
ボトラー	43
びん商・カレット商	26
計	82
賛 助 会 員	37
合 計	119

■ 会長・副会長

会 長	石 塚 久 継	石塚硝子株式会社	代表取締役社長
副会長	神 崎 恵	第一硝子株式会社	代表取締役社長
事務局長	幸 智 道		